学校番号	C4001

令和８年度　公民科

科目	政治・経済	単位数	２
使用教科書	政治・経済　（東京書籍）		
副教材等	なし		

	前期	後期
単位数	１	１
レポート	３通	３通
必要出席回数	１回	１回
テスト	あり	あり

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

政治経済を学ぶ目的は、批判精神をもった人間として、一人ひとりが個人として尊重される、自由で平和な民主的社会を、どのようにして作っていくかを考えることです。政治経済の教材は教科書と「毎日のニュース」です。現代は、情報があふれている情報社会です。書籍・新聞などの出版物、テレビ・インターネットなどから情報を入手し、自分で何が正しいのか考え、関心を持って学習を進めていきましょう。

２　学習の到達目標

・社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会にみられる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力を養う。
・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	現代社会の諸課題の解決の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理に関する事柄を理解し、それらの知識を活用して諸資料から必要となる情報を適切に選択して、まとめる技能を身に付ける。	現代社会の諸課題の解決に向けて、さまざまな事実を多面的・多角的に考察し、公正に判断したことを適切に表現している。	平和で民主的な国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

- 学習指導要領(第１章第２款の５)に則り、ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除(面接指導の時間数のうち 10 分の６以内の時間数を免除)の制度を活用する。
- 前期・後期それぞれに５段階で評価する。

4　学習の活動

範囲	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	現代日本の政治 現代の国際政治 現代日本の諸課題	・民主政治の基本原理 ・日本国憲法の基本原理 ・日本の政治機構 ・現代政治の特質と課題 ・国際政治のしくみ ・複雑化する国際政治と日本 ・福祉社会と日本経済の課題 ・少子高齢社会における社会保障 ・地域社会の活性化 ・多様な働き方・生き方の実現 ・中小企業の意義と課題 ・日本の財政の健全化 ・持続可能な食糧・農業の実現 ・防災と安全・安心な社会の実現	a:現代の政治のしくみや日本国憲法、国際政治に関する事象について理解し、またそれらに関する諸資料を収集し、適切に活用している。 b: 現代の政治のしくみ、民主政治の原理や日本国憲法、国際社会に起こっている事象から現代社会の課題を見出し、公正に判断し、その過程を適切に表現している。 c: 現代の政治のしくみや日本国憲法、国際政治で起こっている事象から見出された現代社会の諸課題について、主体的に解決しようとしている。	レポート テスト	レポート テスト	レポート スクーリング
後期	現代日本の経済 現代の国際経済 国際社会の諸課題	・現代の資本主義経済 ・現代経済のしくみ ・日本経済の発展と現状 ・国民経済と国際経済 ・世界経済の現状と課題 ・グローバル化にともなう社会変容 ・地球環境と資源・エネルギー問題 ・国際的な経済格差の是正 ・イノベーションの促進と成長市場 ・民族問題と紛争の解決 ・持続可能な社会の実現	a:市場経済、日本経済の現状と歴史、金融・財政のしくみ、国際経済について理解し、それらに関する諸資料を収集し、適切に活用している。 b: 市場経済、日本経済の現状と歴史、金融・財政、国際経済に関する課題を見出し、公正に判断し適切に表現している。 c: 市場経済、日本経済の現状と歴史、金融・財政、国際経済に関する課題を主体的に解決しようとしている。	レポート テスト	レポート テスト	レポート スクーリング

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度